

# gooddays

around **KANDA NISHIKI - CHO**  
New Culture & Alternative Lifestyle

Vol. **44**

2026 SPRING ISSUE  
PRICE 0 YEN

本を開き、世界と出会う。  
「三省堂書店神田神保町本店」オープン大特集



## 本を開き、世界と出会う。 「三省堂書店神田神保町本店」 オープン大特集

TEXT/EDIT・Asako Inoue PHOTO・Yuta Suzuki

神保町に三省堂書店が帰ってきました。  
靖国通りにそびえる、ピカピカの新刊書店。  
開店から1ヶ月が経ちましたが、もう遊びに行  
きましたか？

ということで今回は、開店記念スペシャル号。  
一冊丸ごと、三省堂書店特集でお送りします。

新しい三省堂書店の大テーマは“Entrance to  
the World(世界の入り口)”。本を開くことは、  
“世界”と出会うこと。見たことのないもの、知  
らないこと、大昔の話、現代だけど遠いどこ  
かの話、誰かの頭から出てきた、空想のストー  
リー。ずらりと本が並ぶ棚を見てみてください。  
この一冊ずつに、違う“世界”が入っている。  
そう思ったら、ワクワクしませんか？欲しい本  
がわからなくても大丈夫です。「お店を歩いて  
いたら偶然見つけた！」そんな仕掛けが散り  
ばめられていますから。

世界一の本のまちで、  
あなたが運命の一冊に出会えますように。



# 開店準備ふりかえり対談

2022年5月「いったん、しおりを挟みます」というメッセージと共に閉店してから4年。いよいよあと30日で「三省堂書店神田神保町本店」が開店する!という日、亀井社長と開店準備室のみなさんに、新店ができるまでの4年間を振り返ってもらいました。



杉本佳文さん

亀井崇雄社長

柘植葉月さん

岡田健太郎さん



4年前の閉店時「いったん、しおりを挟みます」と書かれた巨大しおりが本社ビルに掲げられ大きな話題に。

## 「そもそも書店ってなんだろう?」から再スタートしました。

岡田 開店までもう、30日きっかりでしたね。

亀井 時の流れの早いこと。やるべきことをやり尽くして、あとは待つのみだね。楽しみ半分、不安半分。

岡田 間に合わせないといけないことがまだまだ山のようにあるとはいえ、私は楽しみという気持ちしかないです。楽観的すぎますかね。

杉本 やっぱり商品が入ってきたら、店の雰囲気ガラッと変わりましたね。久しぶりに本を触ると気持ちも変わるし。いよいよまた本屋をやるんだと、実感が湧いてきました。

亀井 開店準備室のメンバーは最初、岡田くんだけだったけど、気づけば10人に増えたよね。

岡田 そうですね。まさか完走するとは。最初は店舗に行けなくなって拗ねてました(笑)。

柘植 アルバイトさん合わせると、神田神保町本店チームはもう総勢50名ですよ!アルバイト募集には150名を超える方々から応募をいただいて。



杉本 メンバーを選抜するのは大変でしたけれど、新しいことや変化を楽しめて、前向きにチャレンジできる人が集まってくれました。良いチームになったと思っています。

亀井 この4年間で振り返ると……最初は全体のコンセプトづくりから始めたね。「Entrance to the World」というコンセプトに辿り着くまでに、開店準備室メンバーだけでなく社内からも人を集めて、何度もワークショップを開催して。

岡田 閉店前の12月くらいから始めましたよね。

亀井 「そもそも書店ってなんだろう?」というところから問い直しをして。みんなの意見を聞いて、我々も忘れていたなということが結構あったし、気づきを得られる良い時間だったと思う。

岡田 そこから“人生100年時代に貢献したい”と



goodstars channel

新店プロジェクトはコンセプトづくりからスタート。社内でワークショップを開催し、さまざまな声を集めて書店の存在意義を再確認。

いう答えが出てきたんですね。人間は生きている限り、ずっと学び続ける。その手助けを書店はちゃんとやっていかなくてはいけないと、改めて感じた。それも無理やり押し付けるのではなく、そっと背中を押すような存在。そんな書店になれたらいいなというビジョンが明確になりました。

柘植 本はさまざまな世界を知るきっかけになる。そのことを「Entrance to the World(世界の入り口)」という言葉に落とし込んで、プロジェクトの柱として掲げたからこそ、ここまで走ってこられました。

開店30日前の三省堂書店神田神保町本店は搬入作業の真っ最中。大勢のスタッフが総出で本を並べていました。



新店のイベントスペース「つながりの広場」は岡田さん肝入り。すでにさまざまなイベントを企画中だそう。

## ハイキングしたくなる 本と出合える店舗デザイン

杉本 歩き回りたくなる書店にしたいというのも、ワークショップの初期に出てきましたよね。そこから店舗デザインの指針になる「歩けば、世界がひろがる書店。」という店舗設計のコンセプトが生まれて。

岡田 本棚に「渓谷」や「洞窟」という自然の名前がついているのも、ハイキングをするように店内を歩いてほしいという思いから。店内案内もハイキングマップみたいなデザインにしようと考えていますね。

杉本 書店として、探している本にアクセスしやすいことも大事にしつつ、本との偶然の出合いができる書店にしたかった。ハイキング感覚で店内を回って、知らなかった本に遭遇する。出合いを演出するための仕掛けが散りばめられているし、こういう店舗づくりは本当に挑戦だったなあ。

岡田 社長と建築家の長谷川豪さんと一緒に、いろんな書店や図書館に視察に行きましたよね。

亀井 各棚のネーミングや設計は長谷川さんのアイデア。長谷川さんは書店員とは違う着眼点で書店を捉えていて、とっても新鮮だった。

岡田 まさにいま後ろにある本棚もそうですが、本棚の端にあるエンド台という、話題書をPRする絶好の場所を無くして、円柱にしている。端に丸みがあることで、人が回遊したくなるという考えのデザインは、長谷川さんならではのアイデアでしたね。

柘植 私の3階ゾーン大好きなんです。通路もリング状になっていて、思わず走りたくなっちゃう。

岡田 走っちゃダメだけどね(笑)。私も円柱の本棚は気に入っていて、触りたくなっちゃいます。

柘植 長谷川設計事務所様や日本デザインセンター様など、普段なかなか一緒にできないような業種の方々とお仕事をさせて頂き、私も刺激的でした。普段なら考えつけないようなご提案を沢山いただき、とても刺激を受けた反面、運営面も考えようしたら最高のものになるのか、頭を悩ませた部分でもありました。

杉本 とりわけこの業界は、「型」のようなものができているからね。営業スタイルや棚づくりにおいても。

柘植 前の店舗と全然違うので、きっとお客様の中でも賛否両論あると思うのですが……このスタイルでやるって決めたので、もうやるぞー!って感じです。

## 「知の渓谷」の景色を早く見せたい!

亀井 個人的には、1階の「知の渓谷」を早く皆様に見ていただきたい!今まだ本が全部入りきっていない状態で見てもすでにワクワクしていますから。フロア全部を本で埋め尽くし、本に囲まれて、ロフトから本の絶景を見渡す。このアイデアが長谷川さんから出た時はみんな沸き立ったけど、実現するのはすごく大変で……すべての苦勞がここから始まったような。

杉本 レジの位置をどうしよう、とかです(笑)。フロアを本で埋め尽くすと、わかりやすい位置にレジが置けない!ってなりましたから。

岡田 私は3階のイベントスペース「つながりの広場」の旗振り役として、ここを育てていきたいです。本はどんなジャンルとも繋がることのできる、さまざまなイベントを開催していきたい。神田神保町のまちも、どんどん巻き込んでいきますよ。

柘植 以前、三省堂にあった「神保町いちのいち」が2階に復活するのも楽しみです。文具や雑貨が充実しますし、オリジナルグッズは店舗の目玉ですよ。

杉本 社長のオリジナルジン「SHOT STORY」もね。

亀井 たしかにオリジナルグッズも、新しい挑戦の一つだね。ジンは神保町界隈の経営者飲み会で盛り上がり、「神保町だけにジン」とダジャレから生まれた商品だったけど……なんと次は第三弾。商品づくりを通して新しい御縁もできてうれしい限りだよ。

杉本 2階の専門書コーナー「発見のさざ波」は、旧店



舗のメディカルセンターの意思を継ぐ棚。スケールダウンはしましたが、まちのお客様の要望に応えられるよう、十分な物量を揃えたつもりなので、みなさんに届けばいいと思います。

柘植 あと個人的には、円柱の棚のところに本の形のサインが入るのも楽しみです。書籍ジャンルが書いてあるんですが、積ん読みたいな形になっていて、すごくかわいいんです。

## 本も買ってほしいけど、 まずは散歩してください。

杉本 本当にこれまでに見たことのない書店だと思うので、まず一度見に来ていただきたいですね。

岡田 ですね。五感で楽しめるはずだから、ぜひこの空間を体験してほしい。

柘植 極論を言うと、本を買うために来なくてもいいですよ。なんとというか、散歩に来てほしいです! もちろん本を買って読んでいただけたら、うれしいんですけど。

岡田 そうだね。散歩いいね!

柘植 スタッフの接客にも力を入れていきたいと思っています。書店員って話しかけにくいイメージだと思うん

ですが、このお店はガイドがいたほうがきっと楽しいし、話しかけやすい明るいムードのお店にしたい。

岡田 本のこと以外も気軽に聞いてもらえるようになったらいいね。「どうしてこういう棚にしたんですか?」とかでも話しかけていただきたい。スタッフ全員がハイキングマップを片手に、館内をガイドして回れるようになるのが理想。あと30日間で(笑)。

亀井 三省堂だけじゃなく、まち全体も歩き回っていただきたいし、他の書店さんもぜひのぞいてほしい。店名に「神田神保町」と付けたのには、神保町だけでなく、このまち全体で盛り上がってほしいという意味を込めていますから。このまちには本当におもしろいお店や人がいるし、世界中を探しても、これだけ本が集まっている場所はない。みんなで協力しながら、訪れるお客様に楽しんでもらえるまちにしていきたい。そしてもちろん読書の楽しみを知っていただき、みなさんの世界を広げてほしいです。

2026年  
3月19日OPEN

三省堂書店神田神保町本店  
東京都千代田区神田神保町1-1  
10:00~20:00 年末年始休  
03-3233-3312

# いざ、世界の扉を開こう これが三省堂書店神田神保町本店だ!

NOW OPEN THE DOOR TO THE WORLD.  
WELCOME TO SANSEIDO SHOTEN KANDA-JIMBOCHO HONTEN

1階～3階フロアをご紹介。見ているだけでわくわくするような“本のある風景”が広がっています。スタンプラリー付きのMAPをゲットして、店内を歩こう。



**1F** 入った瞬間、周囲360度を本に囲まれる圧巻の一階フロア。新刊話題書や雑誌、文学、ビジネス、旅行ガイド語学、洋書、など。

## ガイドの机



窓際に横にひっそり置かれたラズクには、さまざまな人の必読書をセレクト。初回は亀井将長の5冊が並びます。

**3F** 趣味や児童書、参考書、コミックなどが集まった、キッズも楽しい3階フロア。カフェやイベントスペースもこちらにあります。



積み読の形のサインがかわいい→



## みちびきの渦

本棚がリング状に並んでいて、ぐるぐる一周しているうちに気になるジャンルを発見することができる。中央の平台には新刊・話題書があるので、そこを起点に冒険を始めてもいいかも。

## つながりの広場

本をきっかけに、さまざまな出会いが生まれるであろうイベントスペース。著者を招いたサイン会はもちろん、さまざまなジャンル、まちの人を巻き込んだイベントを企画中。



## 探求の洞窟



本で囲まれながら、好きな本の世界に没入できる秘密基地的な棚。3階はコミック、2階では新書や文庫が同じ形の棚になっている。

goddays channel

## 知の渓谷

外側に向かって階段状に連なる本棚が、まるで渓谷のように広がる。「世界の展望台(ロフト)」から本を見渡すと、世界ってこんなに大きいのか!と感じられるはず。

**2F** 厳選された各ジャンルの専門書、文庫や新書が並びフロア。三省堂オリジナル雑貨も買える「神保町いちのいち」や文具も充実。

## 発見のさざなみ



本棚が斜めに並んでいて、歩いていると次の棚に並ぶ本がどんどん目に飛び込んでくる専門書コーナー。寄せてはかえすさざ波のような本棚に身を委ねて、本の海を漂ってみよう。

## 神保町いちのいち



読書好きならではの目線でセレクトした雑貨や、三省堂オリジナルグッズがそろった雑貨店。お土産やプレゼント選びにも良さそう。

## 喫茶ちそう



コーヒーや軽食を楽しむカフェ。すずらん通りを望む窓際の席もあり、読書がはかどりそう。コーヒーやカレーのほか、本の形のスイーツなどユニークなメニューも。

# 第四回 目指せ! 神田名人

gooddays編集部が神田のキーパーソンにインタビュー。

まちの魅力を掘り下げて、“神田名人”を目指します。

今回はもちろん、三省堂書店の代表取締役社長、亀井崇雄さんの登場です。



今回の先生  
株式会社三省堂書店  
代表取締役社長  
亀井崇雄さん

神田神保町本店の中でもお気に入りの、1階フロア「知の深谷」にて。「世界の展望台(ロフト)からの本棚の景色を見下ろすと、気持ちがいいんです」と、趣味の山登りに似た感覚になるそう。



## 「先見の明あり。妻のひと言で書店を始めた創業者」



明治14(1881年)神保町で創業。当時は古書店だった

三省堂書店の創業は1881年。最初は古書店で、2年後に新刊書店へと転向しました。そのまた前まで遡ると、麹町で下駄屋を営んでいたのが始まりだったとか。「創業者の亀井忠一は徳川慶喜の旗本(家臣)で、明治維新の後に麹町で下駄屋を始めました。そが火事で焼

けてしまい、神保町で古書店を創業。路頭に迷っていた忠一さんと奥さんが『これからは本のビジネスが国を動かすよ』と説得したそうです。神保町にはすでに古書店があって、うちも学生から本を買い取り営業していたようですが、すぐに新刊を仕入れ始め、出版業にも着手。この当時は、やればやるほど新しい境が開ける時代だったんでしょね。その後さらに二度の火事を経験するも書店を立て直し、1934年頃からはさらに事業を拡大。まちの中心だった学生に合わせた多彩なビジネスを展開していきます。「文具ブランドをつくったり、“学生のデパート”と銘打って学生服に化粧品、喫茶店をやったり。夏は湘南のほうで海の家を運営していたこともある。スポーツも音楽も、このまちは学生のニーズに応える形で発展して、文化が溢れるまちになったんです。とはいっても私が入社した2007年には、書店と文具店くらいしか残っていませんでしたけれどね(笑)」。

## 「新刊書店も古書店も他業種の店も、全員が協力する時代がきた」

亀井さんが家業に入ったのは30歳の時。それまでは本とは別の文脈で、このまちを楽しんでいたそうです。「音楽が好きで、御茶ノ水のディスクユニオンや楽器店に通ったり、登山にハマってからは小川町のヴィクトリアや石井スポーツにお世話になって。正直書店にはあまり行っていませんでした(笑)。そんな私が新店舗をつくるなんて。思えば遠くに来たもんです。“本のまち”とは違う側面を知っているからこそ、亀井さんは柔軟です。書店はもちろん、他業種の店や会社とも交流し、全員で



まちを盛り上げようと奮闘中。「東京堂と書泉グランデと弊社、古書店などが有志でポッドキャスト『神保町で会いましょう』を始めたり、4月には全国古書博覧会と神保町ブックフェスティバルを一緒に開催しました。新店舗では他ジャンルの仲間も巻き込んで、たくさんイベントをやってきたい。本はどんな世界にも繋がることのできますから、『お互いに変だだから一緒にやろうよ』という今のまちの雰囲気は父の時代にはなかったし、まちの未来にとってとても大事なものだと思います。これからこのまちは、もっと面白くなると思いますよ」。

# PHOTO WALL Vol. 25

テラススクエア  
フォトエキシビジョン  
2026/1/26(月)～2026/5/22(金)  
開館時間 8:00-20:00(最終日のみ 19:00まで)  
休館日 土日祝・年末年始 入場無料



あなたは世界をどう見ているのか。  
暗闇に向き合うことで、『見る』という行為を思い出す。

Terrace square Photo Exhibition vol.36

## 黒田 零 Rei Kuroda / 影の語り部 Shadow Storyteller

写真とは、目の前の世界をどう見るかというもの。黒田は“見る”という行為をこう考察します。「私たちは日々膨大なものを“見ている”はずですが、実際にはただ視界に入っているにすぎません。多くの写真も情報として流れ去っていきます。しかし、一見してよく見えなもの、何が写っているかわからないものに向き合う

とき、私たちは能動的に『見る』という行為を思い出すのではないかと感じています」。黒田の作品に見られる暗闇の中にあるのは、作家が世界をいかにみるのかという主張であり、あなたは世界をどうみているのか?という問いかけ。暗がりに射す光を写し出す写真に、あなたは何を見つけるのでしょうか。



### 黒田 零 Rei Kuroda

写真と映像のあいだにある瞬間を捉え、非(脱)人間中心主義的視点から、言葉以前の兆しや不可視の物語を探索している。写真・映像・音を行き来しながら、マジックリアリズム的な世界を構築する。

テラススクエア  
東京都千代田区神田錦町 3-22  
1F エントランスロビー

# EVENT INFORMATION 2026/Spring

venue 千代田区神田駿河台一丁目周辺 period 2026年5月10日(日)

## event 令和8年度 太田姫稲荷神社例大祭

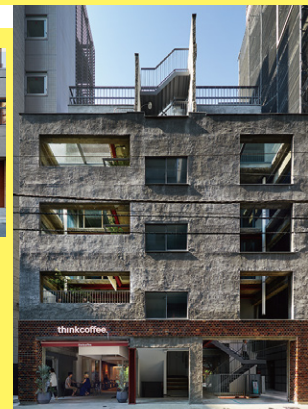


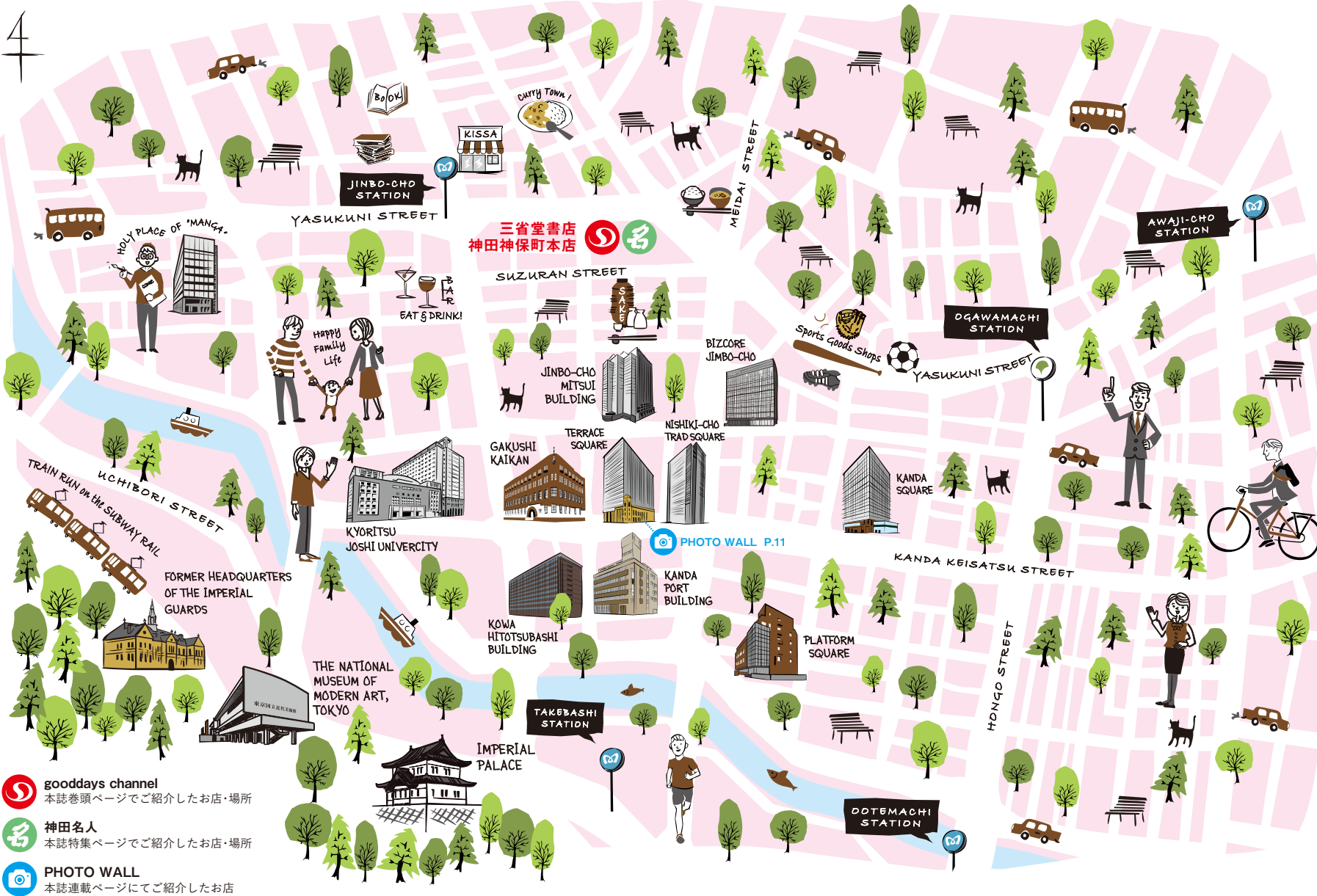
2026年は2年に1度行われる、太田姫稲荷神社の大祭の年。今年も4つの町会が一つになって開催されます。目玉はなんとといっても、リレー形式で繋がれていく宮神輿の巡行。朝8時の宮出しから、午前中は錦町、小川町を巡行し、午後は駿河台を回って夕方17:30に宮入ります。ちなみに山車と子供神輿は午前中のみ巡行。まちに溢れる祭りの熱気をその目で体感しよう。



venue 神田・九段、大手町・丸の内・有楽町ほか period 2026年5月16日(土)～24日(日)

## event 東京建築祭2026

〈建築から、ひとを感じる。まちを知る。〉をテーマに、つくる人・使う人・守り継ぐ人、それぞれの思いに触れながら、東京の多様な建築を楽しみ、まちの魅力を再発見する大規模建築体験イベント。神田錦町界限でも、神田ポートビル、岡田ビルをはじめ、複数の建築でガイドツアーや特別公開を実施します。ツアーの申し込みや最新情報は上のQRコードからチェックを。





-  **gooddays channel**  
本誌巻頭ページで紹介したお店・場所
-  **神田名人**  
本誌特集ページで紹介したお店・場所
-  **PHOTO WALL**  
本誌連載ページにてご紹介したお店

Hakusan-dori (Ave.)



三省堂書店  
Books Sanseido

書泉グランデ  
Shosen Grande

書店街  
Book Stores Street

神保町101ビル  
Jimbocho 101 Bldg.

スポーツ用品店街  
Sporting Goods Stores Street

 駿河台日本大学病院  
Surugadai Nihon Univ. Hospital

神田神保町1丁目  
Kanda-jimbocho 1 chome

神田小川町3丁目  
Kanda-ogawamachi 3 chome

神田すずらん通り  
Kanda-suzuran-dori (Ave.)

